令和３年度

（第２９期）

事　業　報　告　書

自　令和　３ 年　４ 月　 １日
至　令和　４ 年　３ 月 ３１日

公益財団法人 とかち財団

令和３年度事業報告書　目次

１　概況 ---------- １

２　ものづくり支援事業【公益目的事業１】

（１）試験研究 ---------- ２

（２）技術支援

①技術指導・企業相談 ---------- ８

②検査分析 ---------- １０

③技術講習・研修 ---------- １１

④情報発信・成果普及 ---------- １４

⑤外部資金を活用した技術支援 ---------- １７

（３）施設の管理運営

①北海道立十勝圏地域食品加工技術センター ---------- １８

②十勝産業振興センター ---------- １８

（４）十勝ものづくり総合支援補助金 ---------- ２０
（十勝ビジネス支援プロジェクト２０２１）

３　地域連携支援事業【公益目的事業２】

（１）企業相談 ---------- ２３

（２）開発商品等のＰＲ及び販路拡大

①展示会・商談会等への出展 ---------- ２４

②十勝ブランドの推進 ---------- ２５

（３）地域連携の促進支援 ---------- ２７

４　事業創発支援事業【公益目的事業３】

（１）人材育成（十勝ビジネス支援プロジェクト２０２１）

①学生起業家支援 ---------- ２８

②アーリーステージ事業者支援 ---------- ２９

③十勝人チャレンジ支援 ---------- ３０

（２）事業化の加速支援 ---------- ３２

（３）Ｗｅｂによる情報発信 ---------- ３７

５　事業創発拠点の管理運営事業【その他の事業１】 ---------- ３８

６　海外先進地視察事業【その他の事業２】 ---------- ３９

７　収益事業 ---------- ４０

８　主要事業に関連する事項

（１）視察・研修依頼への対応 ---------- ４０

（２）関係機関等が主催する会議等への参画・協力等 ---------- ４１

（３）新型コロナウイルス感染拡大防止の取組み・措置 ---------- ４２

９　管理運営事項

（１）理事会 ---------- ４３

（２）評議員会 ---------- ４４

（３）あり方検討委員会 ---------- ４５

（４）行政特別委員会 ---------- ４５

（５）資産運用委員会 ---------- ４５

１　概況

十勝地域においては、産学官金の緊密な連携により、基幹産業である農林漁業を核とする地方創生の推進に向けた積極的な取組みが進められている。このような背景の下、地域の産業活性化への貢献を目標に掲げている当財団は、十勝の未来につなぐ「価値」の創出と向上を図るため、平成２９年度から５ヶ年で実施している「第２期産業活性化ビジョン」の取組みを着実に進め、その成果を一層広げていくことが求められている。

第２期ビジョンの最終年度となった令和３年度は、３つの公益目的事業を軸に、これらを担う運営拠点（北海道立十勝圏地域食品加工技術センター、十勝産業振興センター、ＬＡＮＤ）の機能を十分に活用・発揮しながら、効果的・効率的な組織運営・事業推進を図った。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大が継続する影響を受け、国による緊急事態宣言の発出中は運営施設を臨時休館したほか、道外の展示会への出展を取り止める等、当初の予定どおりに実施できなかった事業もあった。

ものづくり支援事業では、食品分野の試験研究として、小規模チーズ工房における技術開発の検討等に取り組み、新商品開発や地域資源の有効活用等を支援した。また、機械・電子分野の試験研究として、インゲンマメゾウムシ光学選別装置の製品化等に取り組み、生産現場の課題解決に資する装置・機械開発を支援した。あわせて、両分野の技術支援として、技術指導・企業相談対応、検査分析・機器利用依頼の受入れ、技術講習・研修（オンラインを複合したセミナー等）の開催等に取り組んだ。さらに、「十勝ものづくり総合支援補助金」では、地域企業等が実施する新製品・新技術等の開発等の取組みに対し、事業費の一部を補助した。

地域連携支援事業では、経営課題等に関する企業相談対応のほか、十勝ブランド推進の一環として「十勝ブランド登録制度」を運営した。また、「ＦＯＯＤＥＸ　ＪＡＰＡＮ」の出展取り止めに伴う代替企画として、関係機関との共催にて「とかち・食のビジネスマッチング」を実施した。

事業創発支援事業では、ＬＡＮＤの管理運営を複合しながら、地域産業の担い手育成による創業・起業・事業創発の促進を目的として、人材育成のための奨学金・助成金等の給付事業を実施した。また、事業化の加速支援を図るため、地域の産業支援機関や事業者等との連携・協業（共創型支援）により、ビジネスプランの構築・強化や不足要素の補強支援等を実施するプログラム「トカチコネクション」を運営した。

各事業に共通して、インターネット（ホームページ・オウンドメディア・ＳＮＳ等）を活用した効果的・積極的・広範囲な情報発信を図った。その一環として、食品及び機械・電子分野の研究開発成果等を発信する専用サイト、十勝ブランド登録商品の紹介サイト、「ＬＡＮＤチャンネル」（ＹｏｕＴｕｂｅ）等の運営を実施した。

さらに、第２期ビジョンの目標年次の終了に際し、令和４年度から５年間の組織運営・事業推進の基本方向として、「第３期産業活性化ビジョン」を策定した。このビジョンでは、基本目標は第２期を継承するが、実現手法をこれまでの「伴走型の支援」から「事業者の自律的な成長と事業展開を丁寧かつ緻密に支援」する形に転換し、これを実現戦略に掲げた。その上で、ビジョンの実現に向けたアクションを効果的・効率的に推進するため、３つの重点事項とその展開方向を定めた。あわせて、その着実な推進に向け、公益目的事業等の区分の再編（公益法人変更認定申請の実施～完了）ならびに事務局組織体制の改編に取り組んだ。

令和４年度からは第３期ビジョンに基づき組織運営・事業展開を進め、理想像に掲げる「十勝地域の持続的な経済成長に寄与するプラットフォーム」として、地域にとって「無くてはならない存在」であり続けることを目指す。

２　ものづくり支援事業　【公益目的事業１】

（１）試験研究

食品分野及び機械・電子分野の技術的課題の解決や新製品開発等を促進するため、地域連携を図り、必要に応じて外部資金事業を活用する形で、地域ニーズに対応したテーマに関する実用的な研究開発を実施した。また、その成果を地域へ積極的に発信することで、成果の浸透・定着及び利活用促進を図り、企業等による新事業創出等を推進した。

これにより、地域のものづくり技術力を強化し、質の高い価値創出・向上の促進を図った。

＜食品分野＞

表１（共同研究等のテーマ一覧）

	テーマ
1	小規模チーズ工房における技術開発の検討（令和３年度） ・連携者：十勝地域の小規模チーズ工房 ・内容：ウォッシュチーズに用いる酒類による芳香成分への影響を解析評価し、風味向上による差別化が可能であることを確認した。また、セミハードチーズの表面加熱による保存性向上を確認し、技術応用可能な工房に情報提供を行った。 ＜開発関連商品＞ 【Spica 合同会社】 シェダル ゴーダチーズ 【宮地牧場】 グラスフェッドバターとフロマージュブラン
2	十勝産ばれいしょを用いた加工食品の開発（令和３年度） ・連携者：幕別町農業協同組合 ・内容：越年したばれいしょを原料にレトルト条件を検討し、食味・食感の良い試作品を完成させた。今後、確立したレトルト条件および基礎データを技術移転し、商品化に結び付ける予定としている。
3	十勝産エゾ鹿肉における加工品質に関する研究（令和 2～3 年度） ・連携者：十勝地域の鹿肉加工事業者 ・内容：海外産、道外産シカ肉と比較し、エゾシカ肉は一部のうま味成分が多かった。十勝地域におけるエゾシカ肉のブランド化には加工までの鮮度保持と保存技術が重要であると考えられ、評価指標として香気成分を選定した。今後、引き続きデータ集積を実施する。

4	山幸酵母による発酵食品の開発（令和３年度） ・連携者：日本甜菜製糖株式会社、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 ・内容：山幸酵母ドライイースト製造のための検討を行い、培養菌体の高純度かつ高収量とドライイースト化した際の高生菌率を実用可能レベルまで確立した。引き続き菌体の性状安定化のための支援を実施する予定としている。
5	シーベリーを用いた商品開発および未利用素材の活用法の検討（令和３年度） ・共同研究者：士幌町、株式会社 Cheers（士幌町） ・内容：シーベリー商品および既存商品の改善について検討を行い、試作品を提供した。高純度シーベリーオイルの製法を確立した。

表２（活用した助成金の一覧）

助成事業者	事業名・テーマ名
公益財団法人 全国競馬・畜産振興会	畜産振興事業助成金 「国産チーズ・イノベーション事業」（令和 3～5 年度） （日本獣医生命科学大学[中核機関]及び当財団を共同実施主体とするコンソーシアムにより実施） ・内容：地場産乳酸菌スターターの開発とチーズの試作実証による効果の確認

表３（受託事業の内容一覧）

委託者		事業・業務名および内容
1	国立大学法人 東海国立大学機構 （名古屋大学）	小豆紫色色素の定量法確立による、 品種格差と餡色発色の機構解明を目指す開発試験（令和元～3 年度） ・内容：小豆紫色の色調が活かされるような製餡条件の検討 等

＜機械・電子分野＞

表４（共同研究等のテーマ一覧）

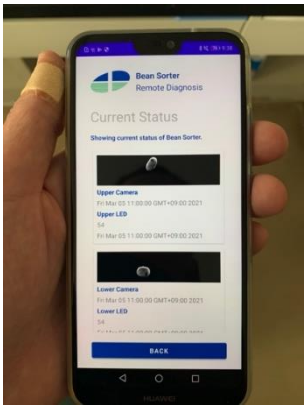
	テーマ
1	血乳検査装置の事業化に向けた研究開発（平成 30 年度～） ・協力機関：十勝農業協同組合連合会、士幌町農協協同組合 ・内容：JA 士幌町の協力を受け、開発中の血乳検査装置のフィールドテストを実施した。テストは乳検査センターに持ち込まれる生乳に対して実施し、従来の検査方法である遠心分離との精度の比較や、集乳業者へ導入する場合の注意点等の評価を受けた。その結果を元に、量産化に向けたフィードバックを実施している。
2	機械装置の遠隔診断装置の開発（令和元年度～3 年度） ・協力企業：株式会社安西製作所北海道支店（芽室町） ・内容：大規模な食品加工・農業調整施設では大量の装置を導入しての自動化が進んでおり、その稼働状況を遠隔かつ集約的に監視するためのニーズが高まっている。今年度は遠隔監視の一例として、選別装置からクラウドシステムに不良品を選別した画像（右の写真）や装置の運用情報をリアルタイムに保存し、携帯端末から確認できるアプリケーションを開発した。開発したアプリケーションは、実機を使用して評価し、運用に向けた課題を精査した。 
3	インゲンマメゾウムシ光学選別装置の製品化（令和 2 年度～） ・共同研究者：株式会社安西製作所北海道支店（芽室町） ・内容：従来の装置では技術的に難しかったインゲンマメゾウムシの幼虫・蛹の検出と除去を可能とする、毎時 1 トン以上の処理能力を確保した国内初の光学選別装置（右の写真）を開発し、その製品化を実現した。これにより、幼虫・蛹・成虫までの検出が一台の装置で可能となった。
4	ＩＳＯＢＵＳ対応ＥＣＵと作業機の開発（令和元年度～3 年度） ・協力企業・機関：十勝農機株式会社（芽室町）、帯広畜産大学、十勝農業協同組合連合会 ・内容：ＩＳＯＢＵＳ対応ＥＣＵと電動化・電子制御化システムを市販の機械式ポテトプランタに組み込んだ作業機（右下の写真）の試作開発を完了した。あわせて、作業機の圃場評価試験を実施し、実用性を評価した。さらに、スマート（精密）農業の共通プラットフォームと位置付けられるタスクコントローラ機能の技術普及を図るため、組み込みソフトウェア開発技術研修会を実施した。今後、タスクコントローラ機能を搭載し、十勝農協連が普及を推進する営農管理システム（ＴＡＦシステム）とのデータ連携にも対応した作業機の試作開発を継続する予定としている。

表 5（活用した助成金の一覧）

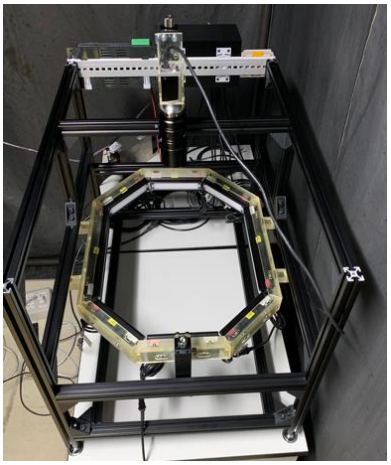
助成事業者	事業名・テーマ名
公益財団法人 日本豆類協会	豆類振興事業助成金 「豆類品質・品位評価判定の自動化技術開発」（令和 3～5 年度） ・内容：豆類の品質・品位の評価作業は、熟練の知識・経験・判断力が求められるが、昨今の労働力不足の顕在化により、検査体制の維持が危惧される状況になっている。本研究では、熟練の検査員が有する知識や経験を最新の画像処理技術で実現し、自動化を達成することを目的としている。今年度は乾燥豆を撮影するための撮像治具（下の写真）を作成した。大量のサンプル（小豆、金時）の特徴量を 1 粒ずつ解析することで、統計に基づいた良・不良の判定基準を評価している。 

表 6（受託事業の内容一覧）

委託者		事業・業務名および内容
1	公益財団法人 北海道科学技術 総合振興センター （ノーステック財団）	食関連産業省力化促進事業（北海道補助） 「ＩＳＯＢＵＳ対応の農作業機に係る民間企業等との共同研究・開発 及び成果の普及・技術者の育成」（令和元～3 年度） ＜委託者を代表機関とする協議体により実施＞ ・内容［当財団の分担業務］： ①ＩＳＯＢＵＳ対応ＥＣＵの開発 ②電動化技術・電子制御化技術の開発 ③ＩＳＯＢＵＳ対応作業機の開発
2	国立研究開発法人 農業・食品産業 技術総合研究機構 （農研機構）	農業機械技術クラスターの研究開発プロジェクト 「ＩＳＯＢＵＳに対応した作業機ＥＣＵ開発」（令和元～3 年度） ＜農研機構北海道農業研究センターを代表機関とする コンソーシアムにより実施＞ ・内容［当財団の分担業務］： ＡＥＦ基準に則ったＩＳＯＢＵＳ通信テストの実施 （AEF＝国際農業電子財団：ISOBUS ガイドラインに関する国際団体）

3	国立研究開発法人 農業・食品産業 技術総合研究機構 （農研機構）	スマート農業技術の開発・実証プロジェクト 「肥育牛の動産担保（ABL）等の導入促進に資する生体センシング等の IoT を活用した低コスト個体モニタリングの実証に係る試験研究」 （令和 2 年度～3 年度） ＜株式会社ファームノートを代表機関とする コンソーシアムにより実施＞ ・内容［当財団の分担業務］： ①センシングデバイスを用いた肥育牛生体モニタリング実証 ②ＲＦＩＤタグを用いた肥育牛在籍モニタリング実証 ③肥育牛特化型デバイスの検討 ④実証管理運営機関業務

表 7（ＩＳＯＢＵＳ普及推進会の運営支援）

区分	内容
目的等	十勝の主要産業の一翼を担う農業機械産業を中心に、ＩＳＯＢＵＳに対応した農業機械の普及を促進するために設立された産学官連携体「ＩＳＯＢＵＳ普及推進会」について、試験研究の一環として、当財団が事務局を担う形でその運営を支援している。
設立年月日	平成 30 年 8 月 9 日
事業年度	毎年 8 月 1 日から 7 月 31 日まで
構成メンバー	役員（3 名） ・会長：米沢　則寿（当財団理事長） ・最高顧問：野口　伸（北海道大学 農学研究院 副研究院長・教授） ・監事：山田　政功（十勝農業機械協議会 会長） 支援機関（6 機関） ・大学ならびに関係機関 アドバイザー（7 名） ・会長が支援機関等から指名した適任者 後援団体（7 機関） ・行政機関ならびに関連団体 会員（合計 40 名・事業所） ・十勝および道内に拠点を有する作業機メーカーなど 【会員の内訳】 正会員　37 賛助会員（法人・団体）　2 賛助会員（個人）　1
主な活動実績	令和 3 年 8 月 3 日～5 日 ＩＳＯＢＵＳ技術研修会（通算第 5 回・オンライン開催）

主な活動実績 （続き）	令和３年９月６日 令和３年度総会（書面開催） 令和３年10月～実施中 ＩＳＯＢＵＳ認証テスト受検対策～予備認証テスト（個別技術研修会） 令和３年10月28日 会が開発したＩＳＯＢＵＳ対応ポテトプランタの合同実用性評価試験（場所：帯広畜産大学実験圃場） 令和４年１月19日 更別村ＩＣＴ農業利活用協議会主催「スマート農業に関する生産者向け研修会」への講師派遣（出席者：約50名）

（２）技術支援

①技術指導・企業相談

企業等による技術的課題の解決や新製品開発等の促進を図るため、研究員が技術相談に対応するとともに、必要に応じて研究員を生産現場等に派遣し、直接的な指導及び助言を実施した。

これにより、地域ニーズ・企業ニーズを的確に把握し、研究開発・技術支援の効果的な展開を図るとともに、利用企業や関係機関等との連携を強化した。

表 8（技術相談件数）［現地技術指導を含む］

年度	相談件数	相談内訳	
		食品	機械・電子
R3	903	629	274
R2	1,062	739	323
R1	982	628	354

表 9（市町村別相談件数）

帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
361	27	35	21	2	29	19	90	17	11
大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	十勝以外
16	1	48	16	1	18	4	2	9	176

表 10（市町村別相談事業者数）

帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
126	6	10	7	2	5	7	17	5	3
大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	十勝以外
4	1	8	7	1	7	3	1	5	93

表 11（技術指導を行った地域活性化プロジェクト）

プロジェクトの内容
株式会社明治とフードバレーとかち推進協議会の包括連携協定に基づく 「十勝ヨーグルトプロジェクト」への技術支援（平成 30 年度～） 【目的】 十勝の乳の価値向上による産業振興・地域活性化 【内容】 株式会社明治が発見した十勝産生乳由来の新乳酸菌「十勝ミルク乳酸菌 TM96」を使用したヨーグルト製品の開発 【主な支援】 製品開発に向けたプロジェクト参画事業者への技術指導 【参画事業者】 十勝地域の乳製品製造企業等　6 社 ＜開発製品の例＞   【有限会社北広牧場】 ほっこうミルクののむヨーグルト

表 12（ものづくりワンストップ相談会の開催実績）

開催日	相談対応職員	共催
R3.6.23 R3.12.3	四宮　紀之	帯広信用金庫・帯広畜産大学・とかち財団

表 13（講師・アドバイザー派遣実績）

＜食品分野＞

区分	派遣日等	事業・セミナー	派遣地	派遣職員
講師派遣	R3.6.2	北海道立農業大学校　畑作園芸経営学科講義 「農畜産加工起業概論」	本別町	水谷香子
講師派遣	R3.6.3	北海道立農業大学校　畜産経営学 「農畜産加工起業概論」	本別町	水谷香子
講師派遣	R3.12.15	北海道中小企業家同友会とかち支部 「義務化に伴うハサップの対応について」	帯広市	四宮紀之
講師派遣	R4.1.6	北海道教育庁十勝教育局 十勝版デュアルシステム「十勝スローフードとの商品開発事例について」	帯広市	葛西大介 川原美香
講師派遣	R4.1.27	北海道十勝総合振興局 とかちフード塾 2022（十勝管内の宇宙食の開発について）	帯広市	葛西大介

②検査分析

企業等の生産・製造活動の側面的支援を図るため、企業等からの依頼により、原材料・試作品・製品の品質評価等に係る試験・検査及び分析、成績書の発行を実施した。

これにより、企業等の課題解決に向けた取組みを促進し、ものづくり技術力の強化を図った。

＜食品分野＞（食品の成分分析や理化学測定、微生物検査）

表 14（検査分析件数）

年度	検査分析件数	内訳		
		依頼試験	依頼分析	謄本発行
R3	31	10	19	2
R2	65	27	37	1
R1	49	25	24	0

※主な依頼試験項目：一般生菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、真菌数

※主な依頼分析項目：灰分、水分、タンパク質、脂質、無機質、食物繊維、糖類　等

＜機械・電子分野＞（鉄筋やコンクリートの強度試験、パークゴルフ用具等の検定試験）

表 15（検査分析件数）

年度	検査分析件数	内訳		
		引張強度試験	圧縮試験	パークゴルフ用具等
R3	236	120	31	85
R2	340	131	0	209
R1	315	179	8	128

③技術講習・研修

ものづくりに関する技術者の育成を図るため、基礎・応用技術や商品開発等の知識習得を目的とした、専門的かつ実践的な技術者養成セミナー・講習会・研究会を実施するとともに、研究員による直接的な指導により技術習得を促進するため、企業等の技術者を研修生として受け入れた。

これにより、十勝の産業を支える技術者の実践的な人材育成を図った。

＜食品分野＞

［１］微生物検査に関する実技講習会

地域食品産業の技術力向上・人材育成を支援するため、食品の品質・衛生管理に必要な微生物検査技術の習得を目的とした、少数限定の実技講習会を開催した。(会場：食品加工技術センター)

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常より定員数を減らし（8 名→4 名)、初級編は同一内容で 2 回開催した。

表 16（講習会開催実績）

開催日	テーマ・実施内容等	受講者数
R3.7.27 R3.7.29	「実践、微生物検査の基礎」（初級編：一般生菌数、大腸菌群）［Ａ日程］ 講師：ものづくり支援部　食品加工技術センターグループ 研究主査　水谷　香子	4
R3.7.28 R3.7.30	「実践、微生物検査の基礎」（初級編：一般生菌数、大腸菌群）［Ｂ日程］ 講師：同上	2
R3.8.3 R3.8.5	「実践、微生物検査の基礎」（中級編：黄色ブドウ球菌、サルモネラ） 講師：同上	3

［２］十勝圏ナチュラルチーズ品質管理研究会

十勝地域のナチュラルチーズ業界における品質管理体制の強化を図るため、チーズ製造及び品質管理に関する知識の習得をはじめ、情報等の共有や意見交換を目的とする研究会を開催した。(会場：食品加工技術センター)

表 17（研究会開催実績）

開催日・期間	テーマ・実施内容等	出席者数
R3.10.12 ～R3.12.7	「HACCP に沿った衛生管理の制度化」における機器の精度確認 及び衛生度の確認（会員工房への個別対応にて開催）	25
R4.3.17	①第 1 回研究会実施報告（工房訪問による機器精度確認等） ②食品工場のカビ対策	17

［３］官能評価に関する基礎講習会

地域食品産業の技術力向上・人材育成を支援するため、食品を取り扱うにあたって重要な指標となる官能評価の基礎的手法の習得を目的とした、少数限定の実技講習会を開催した。（会場：食品加工技術センター）

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常より定員数を減らし（10 名→5 名）、同一内容で 2 回開催した。

表 18（講習会開催実績）

開催日	テーマ・実施内容等	受講者数
R3.8.4	「官能評価基礎講習会 ～ゼロから始める官能評価～」（第 1 回） 講師：ものづくり支援部　食品加工技術センターグループ 研究員　高谷　政宏	5
R3.8.6	「官能評価基礎講習会 ～ゼロから始める官能評価～」（第 2 回） 講師：同上	5

［４］中小食品企業の消費者対応セミナー

地域食品産業の技術力向上・人材育成を支援するため、中小食品企業における消費者対応として、品質に対するクレーム対策を学習するためのセミナーを開催した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、完全オンラインにより開催した。

表 19（講習会開催実績）

開催日	テーマ・実施内容等	受講者数
R3.11.29	「中小食品企業の消費者対応 ～品質に対するクレーム対策～」 講師：食品品質専門家　江川　永　氏	21

［５］商品アピール力強化 味覚センサー活用セミナー

地域食品産業の技術力向上・人材育成を支援するため、中小食品企業における商品アピール力を強化に向けた味覚センサーの活用方法等を学習するためのセミナーを開催した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、完全オンラインにより開催した。

表 20（講習会開催実績）

開催日	テーマ・実施内容等	受講者数
R4.2.22	「味覚センサーの紹介と分析事例・活用事例」 講師：株式会社インテリジェントセンサーテクノロジー 常務取締役　内藤　悦伸　氏	10

［６］技術研修生の受け入れ

地域食品産業の技術力向上・人材育成を支援するため、企業等からの技術研修生の受け入れ等に取り組み、食品加工技術者の技術習得を促進した。

表 21（研修生受け入れ実績）

受入期間	研修内容	受入人数
R3.6.9	微生物検査技術の習得（一般生菌数、大腸菌群等）	2
R3.8.24、R3.8.26	微生物検査技術の習得（一般生菌数、大腸菌群等）	1

＜機械・電子分野＞

［１］３次元ＣＡＤ講習会

地域のものづくり産業の技術力向上・人材育成を支援し、機械製品開発ツールの利活用促進等を図るため、３次元ＣＡＤ及び３Ｄプリンタの操作技術の習得を目的とした、少数限定の実技講習会を開催した。（会場：十勝産業振興センター）

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常より定員数を減らして開催した。（5 名→3 名）

また、緊急事態宣言の影響により、開催期間を一部順延した回があった。

表 22（講習会開催実績）

開催期間	テーマ等	受講者数
R3.6.15～R3.10.5 （全 13 回、原則として毎週木曜開催）	「３次元ＣＡＤ講習会 導入編 ～SolidWorks2010 と３Ｄプリンタを使ってみよう～」 講師：ものづくり支援部　十勝産業振興センターグループ 研究員　西條　大輔	2
R3.10.21～R3.11.18 （全 5 回、毎週木曜開催）	「３次元ＣＡＤ講習会 Fusion360 導入編」 講師：同上	1
R3.11.30～R4.3.1 （全 12 回、毎週火曜開催）	「３次元ＣＡＤ講習会 応用編 ～応用モデリングと構造解析入門～」 講師：同上	3
R3.12.16～R4.3.24 （全 13 回、毎週木曜開催）	「３次元ＣＡＤ講習会 導入編 ～SolidWorks2010 と３Ｄプリンタを使ってみよう～」 講師：同上	3

［２］オンデマンド型技術セミナー

地域のものづくり産業の技術力向上・人材育成を支援するため、企業ニーズに特化した内容で開催するオンデマンド型の実技講習会を開催した。（会場：十勝産業振興センター）

表 23（セミナー開催実績）

開催期間	テーマ等	受講者数
R3.8.17 ～R4.3.8	「企業向けトレーニング ～3 次元 CAD 設計と電子回路設計～」 （機械・電子機器に関するものづくりの基礎から試作までの技術習得） 講師：ものづくり支援部　十勝産業振興センターグループ 研究主査　菅原　崇、研究員　西條　大輔	5

④情報発信・成果普及

ものづくりに関する有用な技術情報を発信するとともに、成果発表会や技術研究会の開催等により、試験研究・技術支援成果の普及に努めた。

これにより、事業成果等を広範囲に拡大させ、より一層の利活用を促進することで、財団事業への認知度・理解度の向上を図った。

＜食品分野＞

表 24（成果発表会の開催実績）

開催日	開催方法	開催内容	聴講者数
R3.10.29	オンラインによる配信	「食加技 ＰＲＥＳＥＮＴＡＴＩＯＮ ＤＡＹ」 【食品分野の試験研究・技術支援に係る成果発表等】 ＜取り組み紹介＞ ① とかち財団を活用しよう ② 多様な食ニーズに対応する食品の開発 ③ おからを利用した味噌製造法の確立 ④ 十勝産エゾシカ肉における加工品質に関する研究 ⑤ 豆類の種類に応じた調理特性による加工品への応用	34

表 25（十勝圏地域食品加工技術者の会 開催実績）

開催日	開催内容	開催地	参加者数
R3.7.27	第 82 回会合 「上士幌町食品加工センター」見学会	上士幌町	8
R3.11.8	第 83 回会合 上川農業改良普及センターとの情報交換会	帯広市	13

表 26（「スクラム十勝シンポジウム」共催実績）

開催日	開催方法	事業・会議等の名称及びＰＲ内容	発表者等
R3.11.2	オンライン による開催	スクラム十勝シンポジウム 2021 ～SDGs の実現に寄与する食料システムの構築へ向けて～ ・発表テーマ 「豆腐製造工程から排出される低価値副産物の付加価値化 ～おから味噌の製造法～」	四宮 紀之

表 27（ホームページの公開・運営状況）

区分	公開内容
食品加工 技術センター 専用ホームページ R3.9 月開設	 https://www.food-tokachi.com

＜機械・電子分野＞

表 28（関係機関等主催事業等での発表・ＰＲ実績）

開催日	事業・会議等の名称及びＰＲ内容	開催地	発表方法	発表者
R3.10.6	ノーステック財団 「スマートものづくり導入促進フォーラム」 ・発表テーマ 「生産性向上のための IoT、AI 技術 in 十勝」	札幌市	オンライン	菅原　崇
R3.11.12	ノーステック財団 「スマート食産業推進セミナー」 ・発表テーマ 食関連産業省力化推進事業 プロジェクトの紹介 「農作業機の国際化 ～ISOBUS 対応農作業機の開発～」	札幌市	会場出席 ［ビジネス EXPO］	松原 慎吾
R4.1.19 ［表 7 の再掲］	更別村 ICT 農業利活用協議会 「スマート農業に関する生産者向け研修会」 ・発表テーマ 「ISOBUS 普及推進会の組織と 活動概要等について」	更別村	会場出席 ［JA 更別村］	葛西 大介 田村 知久 松原 慎吾

表 29（ホームページの公開・運営状況）

区分	公開内容
成果品 PR のための 技術開発・製品開発 内容詳解サイト	 https://www.tokachi-foundation.com

＜共通＞

表 30（ホームページの公開・運営状況）

区分	公開内容
とかち財団 ホームページ	 https://www.tokachi-zaidan.jp/index.php 食品加工技術センター・十勝産業振興センターの施設概要紹介 業務内容、研究成果、設備機器一覧、各種書式のダウンロード等

⑤外部資金を活用した技術支援

北海道の「先端技術の導入支援等による地域生産性向上事業」補助金を活用し、製造業への先端技術（ＩｏＴ等）の導入・応用を図るための製品開発・技術支援により、地域企業の生産性向上に取り組んだ。

表 31（活用した補助事業）

補助元	事業名
北海道	「先端技術の導入支援等による地域生産性向上事業」 内容：①省力化・自動化に関する企業等のニーズ把握 ②IoT システムを適用した試作機開発による企業等への技術支援 期間：令和元～3 年度

（３）施設の管理運営

ものづくりに関する試験研究・技術支援を効果的に実施するため、技術支援施設（北海道立十勝圏地域食品加工技術センター、十勝産業振興センター）の保守管理、設備・機器の利用提供等を実施した。

これにより、施設の基本機能を十分に発揮し、利用者サービスの向上を図った。

①北海道立十勝圏地域食品加工技術センター（指定管理業務）

表 32（施設利用件数）

年度	利用件数	内訳	
		機器等	研修室
R3	191	188	3
R2	249	248	1
R1	271	266	5

表 33（施設利用時間）

年度	利用時間	内訳	
		機器等	研修室
R3	458	449	9
R2	877	873	4
R1	1,678	1,648	30

②十勝産業振興センター（財団所有施設）

表 34（設備機器利用件数等）

年度	利用件数	利用時間
R3	66	160
R2	77	3,279
R1	170	744

表 35（十勝地域機械製品開発ツール普及促進事業）

年度	利用件数	備考
R3	4	委託者：帯広市 内容：３Ｄプリンタ・ＣＡＥツール等の利活用促進・保守管理等
R2	11	
R1	4	

表 36（会議室利用件数）

年度	利用件数	内訳	
		大会議室	中会議室
R3	288	154	134
R2	225	129	96
R1	352	184	168

表 37（会議室利用人数）

年度	利用人数	内訳	
		大会議室	中会議室
R3	8,807	6,279	2,528
R2	6,554	4,772	1,782
R1	18,022	11,739	6,283

※共同研究室について

一般社団法人とかち地域活性化支援機構等の入居に伴い、共同研究室の一般への利用提供は平成 29 年 7 月 1 日より当面の間休止としている。

（4）十勝ものづくり総合支援補助金（十勝ビジネス支援プロジェクト２０２１）

十勝地域の中小事業者等が実施する新製品・新技術等の開発や、その成果普及・販売促進等の取組みに対し、事業費の一部を補助した。

これにより、地域の中小事業者等による新たなものづくりの先導的な取組みや、新しい産業の創造を促進した。

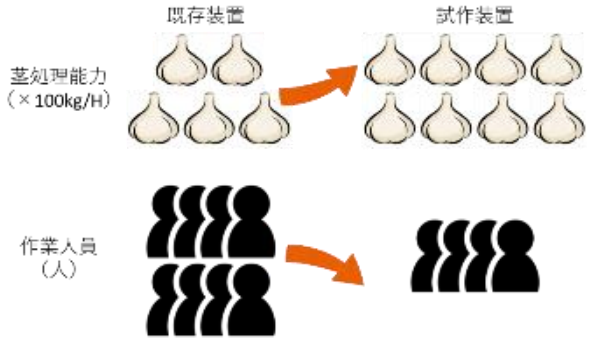
表 38（十勝ものづくり総合支援補助金 募集・採択経過）

区分	内容
対象者	主たる事業所が十勝地域にある中小企業者（農林漁業者を含む）、 または中小企業者で構成された団体・グループ（その他の要件あり）
対象事業等	A 新製品・新技術・新サービス開発 補助率：2 分の 1 以内 ／ 限度額：200 万円 B 販路開拓（国内外） 補助率：2 分の 1 以内 ／ 限度額：100 万円 C 重点事業（上記A・Bのうち、地域への波及効果等が期待できる事業） 補助率：3 分の 2 以内 ／ 限度額：400 万円
募集期間	令和 3 年 3 月 15 日～4 月 28 日
応募数	5 件
選考過程	選考委員会による選考（外部委員 3 名） ・書類選考：令和 3 年 5 月 6 日～13 日 ・プレゼンテーション選考：令和 3 年 5 月 26 日（水） （オンラインを複合して開催）
採択者説明会	令和 3 年 6 月 2 日（水）実施（オンラインによる）

採択者・採択事業のプレス発表　令和 3 年 6 月 2 日（水）実施
（採択者説明会と同時に実施）

表 39（十勝ものづくり総合支援補助金 採択者[4 事業者]）

事業者名	事業内容	補助金額
株式会社 アクト （帯広市）	［新技術開発］ 長期間安定稼働する次亜塩素酸水生成装置「クリーン・ファイン」の開発 ・人体に無害な次亜塩素酸水「クリーン・リフレ」を生成する装置「クリーン・ファイン」の電解槽の長寿命化に取り組み、故障が少なくメンテナンスの負担が少ない装置を開発した。これにより「クリーン・リフレ」の安定供給が可能となった。 	1, 800, 000 円
株式会社 ELEZO 社 （豊頃町）	［新製品開発］ 食肉加工品の通販サイトにおける新商品開発 ・今まで活用しきれていなかった“陰に隠れた食材”に着目し、古くからヨーロッパで食される豚の血液を使用した「ブーダン」という加工品を参考に、“エゾシカの血液”を使用した前菜やデザート感覚の贈答用シャルキュトリ（肉加工品）を開発した。 	900, 000 円

事業者名	事業内容	補助金額
株式会社 加組 （帯広市）	［新製品開発］ 農作業機械（ニンニク根切り機）開発プロジェクト ・既存の専用機械が圧倒的に少なく手作業に頼る部分が多いニンニクについて、作業の省力化や生産性向上による農家の生産量拡大、収益率向上に貢献するため、ニンニク茎根切り機の開発を行い、茎処理において 1.5 倍の処理能力向上と作業人員 2 分の 1 の省力化が可能となった。 	1,099,686 円
ジュラテクノロジー 株式会社 （帯広市）	［重点：新製品開発］ ジビエ肉の地域資源活用による地場産加工品の創出 ・農林業被害防止を起点としたハンター育成事業から捕獲・加工・販売までを一貫して行う仕組み化を進め、さらに IoT 等を組み合わせた差別化により持続可能な事業を推進するため、その中核を担うエゾシカ肉の地場産加工品開発に取り組み、製造設備の整備と各種缶詰製品を開発した。 	3,600,000 円

４　地域連携支援事業　【公益目的事業２】

（１）企業相談

企業等が抱える経営課題の解決や、創業・起業・事業創発の促進を図るため、商工団体・産業支援団体・金融機関等の関係機関と連携・協力し、産業支援の経験が豊富な職員が経営・事業創発・知的財産等に関する相談に対応した。

これにより、地域ニーズ・企業ニーズを的確に把握し、事業化支援の効果的な展開を図るとともに、利用企業や関係機関等との連携を強化した。

表 40（企業相談件数）［技術関係の相談件数と一部重複］

年度	相談件数	相談内訳								
		起業創業	新規事業	人材育成	商品開発	広報拡販	資金獲得	知的財産（※）	地域連携	その他
R3	375	68	91	36	13	16	38	6	80	27
R2	247	40	－	4	44	14	34	16	65	30
R1	208	34	－	0	38	16	36	16	36	32

※知的財産に関する相談について

一般社団法人北海道発明協会（札幌市）が運営する「INPIT 北海道知財総合支援窓口」の帯広サテライトが十勝産業振興センターに設置されており、テレビ会議システムを通じて同協会の担当者に直接相談することができる。

表 41（市町村別相談件数）

帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
226	8	0	7	0	2	2	3	2	2
大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	十勝以外
3	6	9	7	0	6	1	0	6	85

表 42（市町村別相談事業者数）

帯広	音更	士幌	上士幌	鹿追	新得	清水	芽室	中札内	更別
103	6	0	5	0	2	2	3	2	2
大樹	広尾	幕別	池田	豊頃	本別	足寄	陸別	浦幌	十勝以外
3	3	6	4	0	5	1	0	2	51

（２）開発商品等のＰＲおよび販路拡大

①展示会・商談会等への出展

試験研究･技術支援成果の利活用等により実用化された地域発の商品･技術等をＰＲし、その販路拡大を支援するため、首都圏等で開催される展示会・商談会等に出展する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により出展を取り止めた。

一方で、ＦＯＯＤＥＸ　ＪＡＰＡＮへの出展取り止めを受け、地域の関係機関との共催により、販路拡大支援に係る代替事業を実施した。

表 43（出展を取り止めた展示会・商談会等）

区分	展示会の名称・開催地	期間
出展 取り止め	ＦＯＯＭＡ　ＪＡＰＡＮ 2021（愛知県）	R3.6.1～R3.6.4
出展 取り止め	ＦＯＯＤＥＸ　ＪＡＰＡＮ 2022（千葉県）	R4.3.8～R4.3.11

表 44（ＦＯＯＤＥＸ　ＪＡＰＡＮの出展取り止めに係る代替企画の開催）

開催日	開催内容
R4.3.3 ～R4.3.4	「とかち・食のビジネスマッチング 2022」 主催：当財団、帯広信用金庫、北海道十勝総合振興局 後援：帯広市、帯広商工会議所 会場：北海道ホテル 内容：リアルとオンラインを併用したハイブリッド形式の事前マッチング個別商談会 参加企業：28 社（FOODEX JAPAN 出展者ほか） 招聘バイヤー：10 社（オンライン含む） とかち・食のビジネスマッチング 2022　実施状況

②十勝ブランドの推進

特徴ある十勝産加工食品の品質・付加価値を客観的に評価し、その認知度を高めることにより、地域の個性や魅力を象徴する「十勝ブランド」を守り育て、地域産業の活性化に繋げるため、「十勝ブランド登録制度」を実施した。

これにより、さらに質の高い「価値」となり得る十勝ブランドの推進を図るとともに、登録品の効果的なＰＲや事業者間の連携を促進した。

表 45（十勝ブランド登録制度の概要）

区分	内容
対象	十勝産加工食品
登録基準	（１）十勝産原料を 51%以上使用した食品であること （２）次のいずれかを満たしていること Ⅰ．十勝地域で製造されている Ⅱ．十勝の事業者が製造主体である （３）適正な営業・製造許可を受け、法令を遵守していること
付加価値基準	商品の魅力や付加価値を『バリュー』として認定し、それを★の数で表示 （１個～最大５個） （１）登録基準　（★１個） Ⅰ．登録基準をクリア　＝★１個 （２）コアバリュー　（最大★２個） Ⅰ．十勝産原料比率が 80%以上の商品（産地証明の提出が必要）＝★１個 Ⅱ．唯一無二である または、十勝ならではの価値や特徴がある　＝★１個 （３）プラスバリュー　（最大★２個） コアバリュー以外の魅力・付加価値がある　（最大★２個） 【例】受賞経験、第三者認証、オーガニック原料、トクホ　など
登録方法	登録を希望する事業者が任意で申請し、審査委員会による審査を経て登録
審査	有識者による「十勝ブランド登録審査委員会」が基準に基づいて審査し、 全員一致で認められたバリューだけが認定される
登録料	無料（ただし、任意参加の PR 事業は参加負担金あり）
登録期間	無期限（ただし、定期の内容確認あり）
登録マーク	十勝ブランド登録品　十勝ブランド登録品

表 46（十勝ブランド登録状況）　［令和４年３月末日現在］

事業者数	登録品数	主な種類
49	180	チーズ、乳製品、パン、お菓子、農産加工品、畜産加工品、 飲料・酒類、調味料

表 47（十勝ブランド 主な活動状況）

<table>
<tr><th>開催日・期間</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>R3.6.8</td><td>十勝ブランド登録審査委員会の開催（第 1 回）</td></tr>
<tr><td>R3.7.9～</td><td>十勝ブランドパンフレットの作成・配布</td></tr>
<tr><td>R3.7.17
～R3.10.10</td><td>十勝ブランドスタンプラリーの開催（31 店舗）

【応募総数】　445 名
<table>
<tr><th>コース</th><th>マイスター</th><th>博士</th><th>マニア</th><th>入門</th><th>ラッキー</th><th>予科</th></tr>
<tr><td>応募数</td><td>171</td><td>38</td><td>53</td><td>64</td><td>77</td><td>42</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>R3.9.1
～R3.10.31</td><td>「とかちマルシェ」への参加（10 店舗）</td></tr>
<tr><td>R3.11.13
～R4.2.28</td><td>「十勝ブランドお年玉キャンペーン」企画の実施
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度に引き続き今年度も「十勝ブランドグランプリ」の実施を取り止め、その代替企画を実施した。
（キャンペーン参加の 3 店舗で 500 円ずつ購入した先着 300 名に商品券を提供）</td></tr>
<tr><td>R4.3.14</td><td>十勝ブランド登録審査委員会の開催（第 2 回）</td></tr>
</table>

表 48（ホームページの公開・運営状況）

区分	公開内容
十勝ブランド 登録制度 ホームページ	 https://www.tokachi-brand.jp

（３）地域連携の促進支援

事業創発・「売れる」ものづくり・販路拡大等に有効な地域連携・人的ネットワーク構築の促進を図るため、意見交換や情報共有による相互理解、必要な知識の習得、共通課題の検討、販売・マーケティング力の向上等を目的とした「交流の機会づくり」に取り組んだ。また、関係機関等の主催する会議等へ積極的に参画・協力した。

この他、十勝産業振興センターの１階を「コワーキングサロン」として開放し、フリーＷｉ－Ｆｉサービスを提供するなど、ビジネス利用の交流拠点化を図った。

これにより、十勝の「稼ぐ力」を創り出すためのプラットフォームの構築・形成を促進した。

表 49（産学官金連携交流会の共催）

開催日	開催場所	開催内容等	参加人数
R3.6.10	帯広畜産大学 （オンライン開催）	帯広畜産大学「産学官金連携交流会 mini」の共催 ・未利用農林水産資源編 （講演セッション：2 テーマ）	66 名
R3.12.9	帯広畜産大学 （ハイブリッド方式）	帯広畜産大学「産学官金連携交流会」の共催 ・持続可能な地域社会の構築を目指す大学の貢献 （大学見学会／講演会：6 テーマ）	合計 139 名 会場：69 ｵﾝﾗｲﾝ：70
R4.3.30	帯広畜産大学 （ハイブリッド方式）	帯広畜産大学「産学官金連携交流会 mini」の共催 ・発酵食品：日本酒編 （講演セッション：3 テーマ／交流セッション）	合計 54 名 会場：29 ｵﾝﾗｲﾝ：25

４　事業創発支援事業　【公益目的事業３】

（１）人材育成（十勝ビジネス支援プロジェクト２０２１）

①学生起業家支援

事業創発人材の持続的な育成を図るため、将来、十勝地域で創業・起業・事業創発を志す学生等に対し、奨学金を給付した。

これにより、創業等を目指す学生層の拡大を図り、起業家精神を持つ意欲的な人材の輩出を促進した。

表 50（令和 3 年度学生起業家支援奨学金 募集・採択等の経過）

区分	内容
募集概要	対象者：十勝地域の経済社会の発展に寄与することを目的とし、将来事業を起こすことを目標としている大学生等 給付額：36 万円
募集期間	令和 3 年 3 月 15 日～4 月 22 日
応募数	3 件
選考過程	選考委員会による選考（外部委員 3 名） ・書類選考：令和 3 年 4 月 27 日～5 月 22 日 ・プレゼンテーション選考：令和 3 年 6 月 12 日（土） （オンラインを複合して開催）
採択者説明会	令和 3 年 6 月 26 日（土）開催
報告会	令和 4 年 3 月 2 日（水）開催

表 51（令和 3 年度学生起業家支援奨学金 採択者[3 名]）

氏名	所属・学年	ビジネスプラン名
井尻　葉月	帯広畜産大学 畜産学部	なっとーはん　～おててでパクパクなっとーごはん？！～
大山　穂果	帯広畜産大学 畜産学部	～十勝のおいしいを支える～　「防風林ヒカリのふぇすた」
江口　夏帆	帯広畜産大学 畜産学部	ジャガイモ好きが全国に十勝のジャガイモを届ける旅 ～旅支度編～

採択者のプレス発表　令和３年６月 26 日（土）実施
（採択者説明会と同時に実施）

②アーリーステージ事業者支援

事業化のスタートを支援するため、十勝地域で創業・新規事業を開始してから５年以内の事業者に対し、支援金を助成した。

これにより、アーリーステージ（成長初期段階）にある有望な事業者が実施する新事業の展開を促進した。

表 52（令和３年度アーリーステージ事業者支援助成金 募集・採択経過）

区分	内容
募集概要	対象者：十勝地域に主たる事業所があり、応募時点で事業開始後１年以上５年以内の事業者で、事業のステップアップを目指す者 助成金限度額：１社 300 万円まで（助成率 10/10 以内）
募集期間	令和３年３月 15 日～4 月 21 日
応募数	6 件
選考過程	選考委員会による選考（外部委員３名） ・書類選考：令和３年４月 27 日～5 月 21 日 ・プレゼンテーション選考：令和３年６月 17 日（木） （オンラインを複合して開催）
採択者説明会	令和３年７月１日（木）開催

表 53（令和３年度アーリーステージ事業者支援助成金 採択者[3 事業者]）

事業者名	事業内容	助成金額
株式会社 VETELL（帯広市）	「酪農畜産農家の経営を高度化するサービス『vetell』の全国展開加速化事業」	1,509,267 円

合同会社 Swing by（帯広市）	「キッチンカー起業支援型製造販売事業」	2,338,506 円
フォレストデジタル株式会社（浦幌町）	「デジタル森林浴空間『uralaa』の一般向け商品開発」	2,990,510 円

採択者・採択事業のプレス発表　令和３年７月１日（木）実施
（採択者説明会と同時に実施）

表 54（令和２年度アーリーステージ事業者支援助成金採択者報告会の実施）

実施方法	公開時期	報告内容・報告者
YouTube による報告動画公開（LAND ﾁｬﾝﾈﾙ）	令和３年12 月	「しほろ町のヒトとコトを結ぶ“しほろ町らしさを見える化”商品開発プロジェクト」 株式会社 at Local（士幌町）
		「十勝産原料を使った糖質量を抑えたロングライフ商品の開発・販売について」 晴 cafe 合同会社（帯広市）

③十勝人チャレンジ支援

事業者等による新事業創発を支援するため、十勝地域のチャレンジ意欲の高い産業人材に対し、調査研究や概念実証［ＰＯＣ］に要する経費を補助した。

これにより、事業創発に必要な技術導入や課題解決を促進し、地域の産業の発展に寄与できる積極的な人材を育成した。

表 55（令和 3 年度十勝人チャレンジ支援事業補助金 募集・採択経過）

区分	内容
募集概要	対象：十勝地域に居住しており、十勝で事業に取り組む個人 十勝地域に商業登記の住所を有する法人 補助額：上限 100 万円［補助率 10/10 以内］
募集期間	令和 3 年 3 月 15 日～4 月 19 日
応募数	4 件
選考過程	選考委員会による選考（外部委員 3 名） ・書類選考：令和 3 年 4 月 30 日～5 月 21 日 ・プレゼンテーション選考：令和 3 年 6 月 15 日（火） （オンラインを複合して開催）
採択者説明会	令和 3 年 6 月 29 日（火）開催

表 56（令和 3 年度十勝人チャレンジ支援事業補助金 採択者[2 件]）

事業者	テーマ	補助金額
クラフトキッチン （上士幌町）	「スパイスの力で！十勝スパイスネットワーク ～スパイスを使った６次産業化サポートと 十勝グルメの新機軸演出～」	994,683 円
Pono Wolves 株式会社 （帯広市）	「空き家を活用した住まいの提案」	951,068 円

採択者・採択事業のプレス発表　令和 3 年 6 月 29 日（火）実施
（採択者説明会と同時に実施）

表 57（令和 2 年度十勝人チャレンジ支援事業採択者報告会の実施）

実施方法	公開時期	報告内容・報告者
YouTube による 報告動画公開 （LAND ﾁｬﾝﾈﾙ）	令和 3 年 12 月	「十勝からお届けするナチュラルな洋服ブランド D2C 化計画事業」 ヒューデヒムレン（芽室町）
		「地域の薬用植物・ハーブ類等の機能性素材を活用した 6 次産業化事業」 日向　優（陸別町）
		「ASHORO HARD CIDER PROJECT ～リンゴの産地化・全国へ届ける Hard Cider～」 田畑　正仁（帯広市）

（２）事業化の加速支援

十勝地域における創業・起業・事業創発を具体的に支援するため、地域の産業支援機関や事業者等との連携・協業（共創型支援）により、ビジネスプランの構築・強化や不足要素の補強支援等を実施するプログラム「トカチコネクション」を運営した。

これにより、地域で創出された「事業の種」を育成し、支援対象者の事業拡大・加速化を図った。

［１］地域活性化ビジネス相談所「O-KISOU」

十勝の起業家等に対するファイナンス機能を有する「合同会社コントレイル」等との協業により、起業・創業等に必要となる専門的なアドバイスを行う「ビジネス相談会」を開催した。

表 58（相談会開催実績）

区分	内容
構成	主催：公益財団法人とかち財団 協力：合同会社コントレイル、帯広市
対象者	十勝地域で起業・創業を目指す者、新たな事業展開を目指す事業者
開催日	毎月第 2 火曜日（月 1 回の定期開催）
場所	LAND
参加可能枠	4 枠／月（相談時間：1 枠あたり最大 1 時間 30 分）
活動実績	申込件数：17 件 ／ 対応件数：17 件 ／ 法人設立：1 社（起業準備中 3 社）

相談会の実施状況

［２］北海道宇宙サミット 2021

十勝地域の関係機関・事業者とともに実行委員会を組成し、北海道における「宇宙版シリコンバレー創出」の機運を醸成するためのイベントを開催した。

表 59（宇宙サミット開催実績）

区分	内容
主催者等	主催：北海道宇宙サミット実行委員会 ・構成員： 大樹町 インターステラテクノロジズ株式会社 スペースコタン株式会社 十勝毎日新聞社 公益財団法人とかち財団 共催：帯広市
対象者	宇宙産業に関心の高い地域内外の事業者、新事業創出に関心の高い地域内外の事業者など
開催日	令和 3 年 11 月 4 日（木）、5 日（金）
場所・内容	大樹町（ロケット射場ツアー ※オンライン開催） 帯広市：ベルクラシック帯広（カンファレンス、ビジネスサロン、ミートアップ）
出席者数	カンファレンス 約 440 名、ビジネスサロン 約 70 名 オンライン配信（YouTube）視聴者 約 2,200 名

「ビジネスサロン」開催状況（当財団が「参加者のネットワーキングの場」として開設）

［３］Tokachi EGGs（トカチ エッグス）

十勝の将来を担う若年層に対し、地域課題の解決を通じてビジネスの役割を理解してもらうとともに、起業への意欲を喚起することを目指し、高校生が企画運営する課題発見・解決プログラムを共催した。

表 60（Tokachi EGGs 開催実績）

区分	内容
構成	主催：CAN-PASS（高校生ボランティア団体） 共催：公益財団法人とかち財団
対象者	十勝地域の高校生
開催日	令和 3 年 7 月 28 日（水）～31 日（土） 各日 10:00～18:00
場所	LAND、その他フィールドワーク各所
内容	グループワーク、フィールドワーク、地域事業者による講話 等
参加者	19 名（在籍高校：帯広柏葉、帯広三条、帯広緑陽、帯広南商業、芽室）

グループワークの実施状況（7 月 29 日）

［４］地域おこし協力隊向け起業創業セミナー

十勝地域の各市町村に在籍する地域おこし協力隊員の連携強化や事業活動の加速化、ならびに地域の魅力を引き出した起業等の促進を図るため、協力隊員を対象とするセミナーを共催した。

表 61（セミナー開催実績）

区分	内容
構成	主催：十勝総合振興局、公益財団法人とかち財団 共催：フードバレーとかち推進協議会
対象者	十勝地域の地域おこし協力隊員
開催日	令和 4 年 1 月 18 日（火）13:30～16:00
場所	とかちプラザ
内容	①講演「今すぐ始められる起業準備とは」 ・講師：株式会社原口コンサルタントオフィス 代表取締役　原口　勝全　氏 ②事例発表「地域資源を活かした協力隊の起業」 ・発表者：株式会社 ciokay（浦幌町） 代表取締役　森　健太　氏（元地域おこし協力隊） ③意見交換（グループディスカッション、トークセッション）　他
参加者	33 名

グループディスカッションの実施状況

［５］その他の連携・協業実績

表 62（ちくだいスタートアップ体験プログラムの共催）

区分	内容
連携機関	国立大学法人帯広畜産大学、帯広市、地域事業者等
開催期間・回数	令和 3 年 10 月 7 日（木）～10 月 28 日（木）［全 5 回］
会場	帯広畜産大学（オンライン開催を含む）
内容	帯広畜産大学の学生を対象とした起業・ビジネスの学習プログラム ・地域事業者による講義、オンラインフィールドワーク等を実施

表 63（「十勝ドリームマップ会議 2021」実施実績）

区分	内容
主催	十勝ドリームマップ会議実行委員会 （帯広市、フードバレーとかち推進協議会、当財団）
開催期間	令和 3 年 8 月 20 日（金）～10 月 10 日（日）
会場	帯広信用金庫、北海道ホテル（以上帯広市） ひだまりの森（音更町）
内容	十勝地域の起業家が互いを触発し合うネットワークイベント ・テーマ「起業家が作る『子どもの遊び場』プロジェクト」

表 64（一般社団法人 AgVentureLab との連携協定に基づく取組み）

AgVentureLab と当財団の連携内容
【域外スタートアップ×十勝の農業者の実証実験】 道外のスタートアップ事業者と十勝地域の農業者のマッチング等を行い、土の保水性を高める有機質の農業資材の実証実験の実施をコーディネートした。令和 4 年度中の実験開始を予定している。 【域外の大学が実施する特別研究プロジェクトの受入検討】 IT を活用した農業課題の解決等を研究する学生が十勝地域に来訪し、生産現場の視察やスマート農業関連事業者との対話・グループワークを通じて新事業を検討するプロジェクトを令和 3 年度に受入予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえて中止となった。 ---------- ※一般社団法人 AgVentureLab について（ホームページ　https://agventurelab.or.jp/） JA グループ全国 8 団体が、オープン・イノベーションを促進させ、「農業」と「食」と「地域の暮らし」に関わりのある社会課題の解決を目的として、2019 年に設立した組織。 食・農・地域の発展のため、次世代に繋がるイノベーションの創出を目指すことを目的に、「起業家人材の育成」「地方と首都圏の人材交流」「拠点の相互活用」を連携事項として、令和 3 年 2 月に当財団と包括連携協定を締結した。

（３）Ｗｅｂによる情報発信

創業・起業・事業創発に関する支援制度や、十勝地域の起業家による取組みなどを広く周知・普及するため、Ｗｅｂを活用して積極的に情報発信した。

表 65（LAND チャンネルの運営）

区分	公開内容
YouTube による動画配信	【LAND チャンネル】 地域の新たな事業創発への熱量を維持することを目指し、地域の経営者・事業者の生の声やメッセージ（現状をどう捉え、何を想い、次に向けてどう進んでいくのか）を配信する YouTube チャンネルを令和 2 年 6 月に開設し、令和 3 年度は 20 本の動画を公開・配信した。（合計配信数：55 件）

https://www.youtube.com/channel/UCv6Z-_a1RT_dpWStlghqq-A

表 66（Ｗｅｂマガジン・ＳＮＳによる情報発信）

区分	公開内容
Web マガジン 「十勝Ｚ団」	 http://www.tokachi-zaidan.jp/tkzd.php

とかち財団 公式 facebook	https://www.facebook.com/TokachiZaidan/
とかち財団 公式 YouTube	https://www.youtube.com/channel/UCg5QPc2lcjBJIU5FzVrAw7Q
その他	「学生起業家支援奨学金」公式 Twitter https://twitter.com/ShogakukinKigyo

５　事業創発拠点の管理運営事業　【その他の事業１】

地域における創業・起業・事業創発を促進するため、事業創発等を目指す若者や起業家、及びこれらの取組みに関心を示す事業者や関係機関等が集い、新たなチャレンジに向けた構想や戦略を練るための拠点として、スタートアップ支援スペース「ＬＡＮＤ」の管理運営を行った。

表 67（利用者数・プロジェクト登録件数）

年度	合計	内訳					プロジェクト登録件数 (※)
		仕事	相談	打合せ	イベント	その他	
R3	2,749	873	180	1,214	398	84	7
R2	3,065	920	69	1,143	458	475	18
R1	3,909	880	83	934	1,580	432	－

※会議室等の専有使用に際し、当財団の支援対象となる事業を有しているかを事前に確認するため、令和２年度より使用者（プロジェクト）登録制度を導入した。

利用状況（左：相談、右：イベント）

表 68（LAND 利用に係る新サービスの開始）

実施内容
令和３年４月１日より、LAND の使用者登録（プロジェクト登録）を受けた者が利用できる以下の新サービスを開始した。 （１）住所レンタルサービス ・LAND の住所を事業拠点として名刺やホームページ等に表示することができるサービス （法人登記、開業住所、口座開設等への利用は不可） （２）郵便物受取サービス ・LAND にて郵便物の受取を代行するサービス （郵便物の到着後、受付にて連絡・保管・引渡を行う）

表 69（ホームページ・ＳＮＳによる情報発信）

区分	内容
ホーム ページ	 https://www.land.or.jp
facebook	https://www.facebook.com/LAND.tokachi/
Twitter	https://twitter.com/LandTokachi
Instagram	https://www.instagram.com/land.tokachi/

６　海外先進地視察事業　【その他の事業２】

事業創発や技術力高度化等に関する先進的な知見を得ることにより、地域の課題解決や新たな事業展開等を促進するため、地域の事業者や関係機関等とともに海外の先進地を視察しようとするものであるが、新型コロナウイルスの影響により海外への渡航が極めて難しい状況等を踏まえ、当該事業の今後の方向性を検討した結果、事業を廃止することを決定した。

７　収益事業

事業者等からの申込みによる受託事業を受け入れ、地域ニーズを幅広く反映させた技術力高度化等を図った。
また、食品分野の技術ニーズに対応可能な評価事業（食品関連評価事業）を実施した。

表 70（主な受託事業一覧）

	内容
1	企業向けトレーニング ～3 次元 CAD 設計と電子回路設計～

表 71（食品関連評価事業）

コース名	受入件数
賞味期限設定のための支援コース	5 件
味覚センサーを用いた味質評価コース	1 件

８　主要事業に関連する事項

視察・研修依頼への対応、関係機関との連携・協力を以下のとおり実施した。
また、当財団が運営する３施設において、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組み・措置を以下のとおり実施した。

（１）視察・研修依頼への対応

表 72（主な視察・研修対応内容）

期間	方法	団体名等	内容
R3.6.4	オンライン研修	ＪＩＣＡ研修員	中央アジア・コーカサス地域における中小企業振興コース 「十勝地域における産業支援機関の役割について」
R3.8.17	オンライン研修	ＪＩＣＡ研修員	草の根技術協力事業：Kedha Food Valley 推進による地域活性化プロジェクト 「とかち財団の取組みについて（十勝ブランド等）」
R3.11.4	動画配信	ＪＩＣＡ研修員	カザフスタン中小企業振興支援コース 「十勝地域における産業支援機関の役割について」
R4.1.20	動画配信	ＪＩＣＡ研修員	農業・農村 DX/スマートフードチェーン共創に向けた産官学人材育成（B） 「とかち財団の取組みについて（ISOBUS 普及等）」
R4.3.2 R4.3.10	動画配信	ＪＩＣＡ研修員	乳肉卵を中心とした畜産物の安全性確保と品質管理向上コース 「畜産物の研究開発と企業支援について」 「畜産食品の微生物検査・成分分析について」

（２）関係機関等が主催する会議等への参画・協力等

表 73（道内の関係機関が主催する会議等への主な参画・協力実績）

主催機関・事務局等	会議等の名称	備考
フードバレーとかち推進協議会（帯広市）	フードバレーとかち推進協議会	
帯広市	フードバレーとかち人材育成事業　運営委員会	
帯広市	帯広市産業振興会議	オブザーバー
帯広市	とかち観光誘致空港利用推進協議会	副会長
帯広市	十勝バイオガス関連事業推進協議会	幹事
帯広市	とかち高等教育推進まちづくり会議	部会長
帯広市、（一社）とかち地域活性化支援機構	帯広地域雇用創出促進協議会	監事
帯広商工会議所	とかちマルシェ推進協議会	幹事
帯広商工会議所	とかち創業支援ネットワーク会議	
帯広商工会議所等	とかち商工産業振興会議（とかちづくり会議）	オブザーバー
帯広信用金庫	とかち・イノベーション・プログラム	
帯広畜産大学	スクラム十勝	
帯広畜産大学	帯広畜産大学地域連携フェロー	ﾌｪﾛｰ委嘱４名
帯広畜産大学	人体及びヒト試料研究倫理審査委員会	委員
帯広畜産大学	学生と地域がつながるまちづくり支援事業運営会議	構成員
帯広畜産大学	産学連携センター外部評価委員会	委員長
十勝農業機械化懇話会	十勝農業機械化懇話会	
経済産業省北海道経済産業局	北海道地域産業技術連携推進会議	
北海道	北海道科学技術審議会「地域懇談会」	
北海道	ものづくり技術支援ネットワーク会議	
北海道	十勝地域中小企業支援ネットワーク	
（地独）北海道立総合研究機構	北のものづくりネットワーク会議	
（公財）北海道科学技術総合振興センター	北海道技術振興連絡協議会	
（公財）北海道科学技術総合振興センター	チャレンジフィールド北海道（産学融合拠点創出事業）	
（NPO）グリーンテクノバンク	広報誌「グリーンテクノ情報」編集委員会	委員

（３）新型コロナウイルス感染拡大防止の取組み・措置

表 74（令和 3 年度の取組み・措置状況）

開始日・期間	内容
令和元年度 ～継続中	会議室使用料金の取り扱いに係る特別措置の実施 ・使用承認を受けた事業者等が感染拡大予防対策として使用を取り止めた場合は、事前に納入された使用料金の全額を返還する（通常、承認後の取り止めに係る使用料金の返還は行わない）
令和 2 年度 ～継続中	「新北海道スタイル」安心宣言の掲出開始
R3. 5. 17 ～R3. 5. 31	政府による緊急事態宣言の全国拡大に伴い、全施設を臨時休館 （会議室等の利用も停止） ・技術相談・企業相談対応は随時実施
R3. 6. 1 ～R3. 6. 20	緊急事態宣言の延長に伴い、臨時休館を延長（6 月 21 日より再開）
R3. 8. 27 ～R3. 9. 12	政府による緊急事態宣言の全国拡大に伴い、全施設を臨時休館 ・技術相談・企業相談対応は随時実施 ・臨時休館の前日までに利用予約のあったものに限り、会議室等の利用を承認
R3. 9. 13 ～R3. 9. 30	緊急事態宣言の延長に伴い、臨時休館を延長（10 月 1 日より再開）
R4. 1. 27 ～R4. 3. 21	まん延防止等重点措置適用期間は、感染防止対策を徹底した上で、原則として全施設の開館を継続

９　管理運営事項

（１）理事会

①第１回（定款第３４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 3 年 6 月 2 日（水）
報告事項	1. 規則の一部改正について 2. 理事、監事、評議員選考委員会の結果について 3. 令和 3 年度事業経過報告について（第 1 回）
決議事項	1. 令和 2 年度事業報告・決算の承認について 2. 評議員会の開催について 3. 規則の一部改正について 4. 次期産業活性化ビジョンの策定について

上記事項について了承・決議された。

②第２回（定款第３４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 3 年 6 月 25 日（金）
決議事項	1. 理事長（代表理事）1 名の選定について 2. 副理事長 3 名の選定について 3. 評議員会の開催について

上記事項について決議された。

③第３回

開催日	令和 3 年 10 月 25 日（月）
開催場所	十勝産業振興センター　大会議室
出席者	8 名（理事 7 名、監事 1 名）
報告事項	1. 令和 3 年度事業経過報告（第 2 回）について
決議事項	1. 理事長の辞任ならびに選定について 2. 第 3 期産業活性化ビジョンの策定について 3. 評議員会の開催について

上記事項について了承・決議された。

④第４回（定款第３４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 4 年 2 月 10 日（木）
決議事項	1. 公益法人変更認定申請について

上記事項について決議された。

⑤第５回（定款第３４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 4 年 3 月 16 日（水）
決議事項	1. 株主議決権の行使について

上記事項について決議された。

⑥第６回

開催日	令和 4 年 3 月 23 日（水）
開催場所	十勝産業振興センター　大会議室
出席者	9 名（理事 7 名、監事 2 名）
報告事項	1. 令和 3 年度事業経過報告（第 3 回）について
決議事項	1. 第 3 期産業活性化ビジョンの策定について 2. 事務局組織規則等の一部改正について 3. 令和 4 年度事業計画及び収支予算について 4. 評議員会の開催について

上記事項について了承・決議された。

（２）評議員会

①第１回（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第１９４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 3 年 6 月 25 日（金）
報告事項	1. 理事、監事、評議員選考委員会の結果について 2. 令和 3 年度事業経過報告について 3. 次期産業活性化ビジョンの策定について
決議事項	1. 令和 2 年度事業報告・決算の承認について 2. 任期満了に伴う理事、監事、評議員の選任について

上記事項について了承・決議された。

②第２回（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第１９４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 3 年 7 月 8 日（木）
決議事項	1. 評議員の選任について

上記事項について決議された。

③第３回（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第１９４条に基づくみなし決議）

決議があったものとみなされた日	令和 3 年 11 月 19 日（金）
決議事項	1. 理事の選任について

上記事項について決議された。

（３）あり方検討委員会（書面開催）

①第１回

委員構成	理事・監事・評議員のうち理事長が指名する５名
完結したものとみなされた日	令和３年10月22日（金）
検討事項	1. 委員長の選定について 2. 第３期産業活性化ビジョンの骨子（基本的な方向性）について

上記事項に関する検討を行い、その内容について了承された。

②第２回

委員構成	理事・監事・評議員のうち理事長が指名する５名
完結したものとみなされた日	令和４年３月22日（火）
検討事項	1. 第３期産業活性化ビジョンの素案について

上記事項に関する検討を行い、その内容について了承された。

（４）行政特別委員会（書面開催）

委員構成	十勝地域19市町村の行政機関担当者等
完結したものとみなされた日	令和４年２月25日（金）
報告事項	1. 令和３年度事業経過報告について 2. 基本財産等の状況について 3. 第３期産業活性化ビジョンについて
協議事項	1. 令和４年度事業計画（案）について 2. 令和４年度運営負担金について

上記事項に関する報告・協議を行い、その内容について了承された。

（５）資産運用委員会（書面開催）

委員構成	理事・評議員のうち理事長が指名する３名
完結したものとみなされた日	令和４年３月28日（月）
報告事項	1. 資産運用の状況について
協議事項	1. 委員長の選出について 2. 今後の資産運用について

上記事項に関する報告・協議を行い、その内容について了承された。

以　上